

登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会 第2回まちづくり部会 議事録

日時 令和4年5月19日（木）13時30分

会場 登別市婦人センター講堂（2F）

出席者 （委員）成田委員、勝間委員、太田委員、川西委員、日野委員、南委員、須賀委員
（事務局）【教育部】堀井部長、近間総括主幹、蓬田主査
【総務部】井上次長、大澤総括主幹
【観光経済部】服部総括主幹

○部会長 時間となりましたので、これより「登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会」の第2回まちづくり部会を開催いたします。

前回は、部会長を選出し、今後の進め方について協議しました。

その結果、まちづくり部会の議論の進め方としては、まちづくりに関わる各方面の関係者と意見交換を行い、その後、その結果も踏まえながら、まちづくりの側面から、登別中学校の今後のあり方、幌別中学校との統合の是非について検討することといたしました。

なお、意見交換の相手方としては、前回の議論も踏まえて、市でまちづくりを担当する企画部門や観光まちづくり協議会、登別国際観光コンベンション協会、登別温泉旅館組合を想定しているところです。

今回は、市でまちづくりを担当する総務部企画調整グループに事務局としてお越しいただき、登別中学校区のまちづくりの方向性やまちづくりにおける登別中学校の役割、仮に統合となった場合の影響などについて説明を受け、それを基に意見交換を行いたいと思います。

それではさっそくお配りした会議次第にしたがって進めていきます。本日は、前回到引き続き、事務局の一員として、井上総務部次長、大澤総務部企画調整グループ総括主幹、服部観光経済部商工労政グループ総括主幹に参加いただいております。

ります。

会議次第2として、「登別中学校区の『まちづくり』について」説明いただきます。それではよろしく願いいたします。

○事務局 (事務局より資料に基づき説明)

○部会長 事務局より、「登別中学校区の『まちづくり』について」説明がありました。ただいまの資料説明について、部会員の皆さんから質問などはありませんでしょうか？

○委員 登別中学校が「まちづくり」とどう関わってきたのかということですが、ここで紹介されているのは、学校が中心となって行っていることだけですね。

○事務局 そうですね。

○委員 そのほかの取組というのはあるのでしょうか？

○事務局 我々が把握しているのは学校が中心となった取組になります。それ以外の部分については、具体的に把握しておりません。

○事務局 補足になりますが、職業体験などを行う時に、他の地域ですと校区だけで収まるということはないのですが、登別中学校区は温泉地区を擁しており、事業所も多数ありますので、体験場所が校区内のみ充足するというお話を伺っております。この点は、登別中学校区の特色になろうと思います。

○委員 今回ご紹介いただいた例だけでも十分特徴があると思います。

○部会長 会議次第3の意見交換になりますが、今日は時間が限られておりますが、部会員全員に意見をいただきたいと思っております。

○委員 私たちは観光地で事業をやっているわけですが、近隣であれば、定山溪や洞爺湖がライバルになるわけですが、洞爺と定山溪の学校の状況がどうなっているのか。洞爺は小学校ですが、温泉地区に学校があります。定山溪は、温泉地区に小中一貫校があります。対して、登別温泉には小学校も中学校もありません。現在は、登別地区には小学校と中学校がありますが、さらに中学校も無くなってしまったら、洞爺や定山溪と比較してもかなり見劣りしてしまう。観光産業の雇用を考えた時に、特に中間管理職は子育て世代ということになりますので、リクルートする時に、洞爺湖温泉や定山溪温泉との比較で非常に不利になる。こうしたことを考えても、私は統合に反対します。

○委員 先ほども言いましたけども、登別中学校で、観光とこんなに関わって学校教育がなされているとは思っていませんでした。

ただ、もっと言えば、観光客と直接学校が接する機会というのを作ってもらえばありがたいかなという気がします。熊舞とかだけではなく、日常的に。

○部会長 その他どうでしょうか。

○委員 私も登別温泉で事業をしておりますので、学校が無くなることによって、子育て世代が登別で働くということのを避けるようになるのではないかとこのことを心配しております。登別温泉地区としては、働く人も住んで良しなまちづくりをテーマに考えていますので、この学校の問題は非常に大きい問題だと認識しております。

しかし、私はまちづくりの部会に入っているのですが、中学校1年生の娘がいる親でもあります。その立場で考えると、生徒が各学級に20人いないといった状況が子どもの教育に良いのかということも、同時に考えます。教育環境もよく、通いやすいというような学校がこの地にあれば、求人活動をするときにもひとつのセールスポイントになると思います。例えば、保育所で言えば、登別にはコロポックルの森がありますけれども、保育所としても魅力的で、距離的には遠いけ

れども、スクールバスで送り迎えは万全というのは、子育て世代にとっては魅力になると思いますし、実際に人を雇用するにあたって、そうしたセールストークをしたことがあります。小学校、中学校でも同じようなことができればいいのかなと思います。

○部会長 委員は、現役時代は学校の先生をされていたわけですが、今回は地域の町内会の立場ということで、ご意見などいかがでしょうか？

○委員 私としては、なんとか中学校を無くさない方向で考えられないだろうかと思っています。例えば、小規模特認校であるとか、義務教育学校のような小中一貫校にすることで、存続を模索できないだろうかと考えております。

○部会長 他にいかがでしょうか？

○委員 今後を見通したときに、人口が減っていき、これに伴って子どもの数も減っていき、教育環境が悪化してしまうのではないかというのは懸念としてはあるわけですが、他の自治体も同じ悩みを抱えながら、地域を守るために知恵を絞っているものと思います。そう考えると、我々もまだまだ絞れる知恵はあるんじゃないかと思っています。例えば、委員がおっしゃった小規模特認校という形を採ることによって、特色のある学校づくりを進めるという方法もあろうかと思っています。そうすることによって、例えば隣の白老・虎杖浜地区からも子どもたちを受け入れることができるようになるのではないかと思います。登別地区は、白老町とも関係が深く、また、ジェイコーもできて、働き場所もある。また、隣接する温泉地区にも、各施設が多く労働者を必要としている。そうした意味では、雇用の場も充実しているわけですから、統合ありきではなく、何とか残す方向で考えることはできないかと思っています。日本全国で、学校を残すためにやっている取組の情報を集めて、どんどん取り入れていけばいいのではないかと思います。そうすることによって、1年でも2年でも学校をこの地域に残していければと思います。

○部会長 ありがとうございます。その他どうでしょうか？

○委員 統合する、しないももちろん大事なのですが、いま登別中学校で行われている特色ある教育は、無くしてしまってもいいものなのかどうかということをもっと考える必要があるように思います。例えば、登別中学校では、学校をあげて熊舞に取り組んでおり、インバウンドのお客様の前で、多言語で熊舞を披露したりということもやっている。こうした特色ある教育は、統合によってどうなっていくのか。統合で無くなってしまうのか、あるいは引き継がれていくのか。人数が少ないから統合する、統合しないではなく、この学校で取り込まれてきた特色ある教育を引き継いでいくことは可能なのか、それとも難しいのか、そういった観点から話すことも重要だと思います。

○部会長 中学校の統合は仕方ないのではという印象を私自身持っていたのですが、自分が家を建てると仮定した時に、中学校が無い地域を選ぶことはないように思います。中学校が無いだけで、候補地から外れてしまうのではないかと、そう考えると、大変な問題なのではないかと思うようになりました。ご指摘のとおり、人口減はどんどん進んでいるわけですが、人口を増やすために十分な施策を講じてきたのかという疑問があります。例えば、子育て世代がこの地域に住宅を建てる時には減税するだとか、市営住宅を有効活用するとか、いまウクライナ問題が注目を集めていますが、ウクライナからの難民を受け入れるとか、様々な方策があるのではないかと思います。また、この地域は、温泉地区やカルルス地区はもちろん、白老町とも隣接しており、特に虎杖浜地区とは密接な関係にありますので、例えば、小規模特認校といった方法によって人を呼び込めないだろうかと思えます。また、民間の側から考えれば、登別地区の居住者に住居手当をプラスで支給するといった方法もあろうかと思えます。まだまだやれることはあるのではないかと思います。

○委員 地理的に、登別地区は富浦の山で幌別地区よりも西の地域と隔てられています。例えば、室蘭の幼稚園のスクールバスも、幌別地区までは来ますけれども、登別

には来ません。そうしたことを考えても、なんとか登別中学校は存続させるべきと思います。

○部会長 いまは授業でもタブレットを利用していますので、遠隔で授業を行って、行事の時は他校と交流するという方法もあるように思います。

○部会長 本日は、委員の皆さんの意見を伺いましたが、委員の話としては、この地域には中学校が必要という認識で一致しているように思います。委員会の下には2つの部会があって、今後も議論は続けられていくわけですが、人口増加は一朝一夕で効果が出るものではありませんので、5年とか10年とかのスパンでできることを検討していかなければならないと思います。教育環境という面で考えた時には、部活の選択肢が少ないですとか、1学年1クラスしかない環境で、上の学校に進学した時の不安ですとか、様々な問題はあろうかと思いますが、この地域は、そうした不安を超えるだけのポテンシャルを持っていると思いますし、子どもたちに自分達のルーツを感じてもらうためにも、地域は存続しなければならないし、そのためには中学校が必要だと思います。中学校を存続させるために、どのようなことができるのか、その点を、自治体の方も含めて、これはできる、これはできないということをざっくりばらんに話していければと思います。

○部会長 他にありませんでしょうか。それでは最後に、会議次第4の「その他」について、事務局よりお願いします。

○事務局 今回は、市のまちづくりを担当している企画調整グループからこの地区のまちづくりということで説明をしてもらったんですけども、次回以降、第3回、第4回につきましては、観光まちづくり協議会、登別国際観光コンベンション協会、登別温泉旅館組合の関係者の方をお招きし、6月と7月の2回に分けて意見交換を行いたいと思います。

6月の第3回につきましては、事務局より、登別中学校の現状や今後の見通しについて話をさせていただいて、その後に意見交換を行いたいと思います、7月

の第4回については、第3回の結果を踏まえて、意見交換を中心に行うことを想定しております、

形式としては、部会のメンバーの方から、観光まちづくり協議会や登別国際コンベンション協会、登別温泉旅館組合の関係者の方に質問を投げかけて、意見を聴取するというような形になるのかなと考えております。

次回につきましては、6月23日木曜日、その次の回は7月21日木曜日、時間はいずれも本日同様13時30分から、場所についても本日同様、婦人センターを考えております。

部会員の皆さんへの案内については、後日、事務局より郵送させていただきます。

○委員 次回は予定があって参加できませんので申し上げたいのですが、登別地区は世界的に有名な観光地を要するということが、他の地区との大きな違いだと思っ
てまして、そのため国際色も非常に豊かです。実際、コロナ前の状況で言えば、弊社の社員の10%が外国籍でした。また、登別小学校に通っていた私の娘の同級生は、20人のクラスメイトのうち3人がハーフであったり、中国籍であったりする訳なんです。この割合というのは、東京都港区に匹敵する比率だと思っ
てお
りまして、これから日本人がどんどん減っていく中で、弊社としても外国から労働者を受け入れていきたい、若い世代を呼んできたいと思っています。日本人は減っていくけども、そういった活路も考えられるのかなと考えております。

○部会長 他にありませんか。それではこれで「登別中学校 学校適正配置に関する地区別検討委員会」の第2回まちづくり部会を終了します。皆さん、長時間にわたりありがとうございました。